

# 遺言碑 親友の筆跡

## 文人の 武蔵野

森鷗外(本名・森林太郎、1862~1922年)は、衛生学者として医学行政に従事し伝染病の予防などに努めました。晩年は芸術を解する歴史家として多くの要職に就き、博物館の展示編成の改革、正倉院宝物の点検、学術調査の成果公開、元号の出版考証等に最期まで尽力しました。

1918年(大正7年)9月24日、56歳の鷗外は「風雨。皇霊祭。感冒不参拜。」と日記に記します。「感冒」とは、当時世界中で流行していたスペイン風邪のことです。前後の日記からは、精力的に公務にあたっていたことがわかります。

### 森鷗外 ④



三鷹市の禅林寺にある森鷗外の遺言の碑

22年(大正11年)5月には英国皇太子の正倉院参観に同行しますが、その頃から体調の悪化を自覚。肺結核の兆候も見られましたが、医業と治療を排した自然死を選びます。7月5日、日記を断筆し、翌6日、親友賀古鶴所を枕元に呼び寄せ遺言の代筆を頼み、その3日後に逝去します。遺言は洋半紙に4枚。一切の肩書を取り払うことを求める辞世文で、「余ハ石見人森林太郎トシテ死セント欲ス」墓ハ森林太郎墓ノ外一字モホル可ラス」とあります。後に全

集にも収録され、日本の文学者で最初の遺言碑が三鷹の禅林寺に建立されます。多くの作家や研究者がそれぞれの解釈でアプローチする鷗外の文学作品としての「遺言」が、武蔵野の地に賀古の筆跡で刻まれています。

集にも収録され、日本の文学者で最初の遺言碑が三鷹の禅林寺に建立されます。多くの作家や研究者がそれぞれの解釈でアプローチする鷗外の文学作品としての「遺言」が、武蔵野の地に賀古の筆跡で刻まれています。

### おすすめの1冊

#### 「両像・森鷗外」

森鷗外の日記を採ることによって生涯を捧げた男を描き、芥川賞を受賞した松本清張(1909~92年)は、上京して流行作家となり、武蔵野を舞台にした作品も多く残します。『両像・森鷗外』は、鷗外の史伝を読み解きながら展開する評伝で、鷗外の「遺言」の謎にも迫ります。



(松本清張著・文春文庫)

# 武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006  
武蔵野市中町1の13の1 3F  
電話 0422(51)3131  
FAX 0422(51)3133  
musasino@yomiuri.com  
都内版編集室  
電話03(3217)1465・1466  
江東支局 電話03(3631)6116  
立川支局 電話042(523)4477  
ホームページ  
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は **0120-4343-81**

【広告】読売Palette 03(6272)9027  
【折込チラシ】 0120-03-4343  
【読売旅行】 03(5550)0666

2月14日(日曜日)  
旧 1月3日<先負>

■ あすの暦  
通日 45  
月齢 2.3  
(正午)



＝東京標準＝  
満潮 6.50  
18.10  
干潮 0.27  
12.39  
(大潮)

日出 6.29  
日入 17.22  
月出 8.05  
月入 19.43